

授業SNSを用いた協調学習統合型講義の試み

田中 浩朗

東京電機大学工学部 第3期MOSTフェロー

1. はじめに

一方向的な講義を双方向的にし、また聴講中も受講者同士が協調学習(collaborative learning)を行えるよう、Twitter風のインターフェイスを持つ授業SNSを導入した。授業中に受講者は、従来通りの講義を「表チャンネル」(frontchannel)で聴講しつつ、同時に、授業SNSという「裏チャンネル」(backchannel)で講義内容に関するコミュニケーションを行うことが可能となる(Pacansky-Brock, 2013)。これは、従来型の講義にオンラインでの協調学習を統合することにより、大学の講義の新たな可能性を探る試みである。本発表では、授業SNSを用いた協調学習統合型講義の概要と4年間の試行錯誤により得られた経験を報告する。なお、「協調学習統合型講義」という用語は、出口(2007)の「Webベース協調学習連携型講義」からヒントを得て思い付いたものである。

2. 授業SNS導入の背景

筆者は、2005年度から現在の勤務校で主に科学史関係の教養科目を担当しているが、人文社会系の教養科目でよくある一方向的な講義では、学生に講義内容に興味を持ってもらい、しかも主体的な学びを促すことは極めて難しいと感じていた。他方、近年新たなネットサービスやデジタル機器が急速に普及しはじめ、こうした現代的なツールを授業の活性化のために使えないかと考えるようになった。

最近では、視聴者が同じテレビ番組を観ながらTwitterで意見交換したり、Ustreamの中継を観ながらソーシャルストリーム(Ustream画面横のコメント欄)で意見交換したりするのは珍しくない。これと同じようなことが講義でできないだろうか考えたのである。もちろん、対面の講義ではネットを使わなくても直接対話することが可能だが、私の講義では、発言を求めても自発的に発言する学生はほとんどいない。しかし、デジタルネイティブとも言われる現代の学生はネット上でなら、授業中でも発言することがあるのではないか。そのような考えから、2011年度に授業SNSを導入してみた。

3. 授業SNSの構築

授業中、学生にTwitterを使用させる例(村上, 2011)はすでにあつたが、授業のためのコミュニケーション空間を独立させるため、および入力されたデータの活用がしやすいことから、筆者は既存のソーシャルメディアを利用せず、授業のための独自システム「授業SNS」を構築した。このシステムは、レンタルサーバー上で、オープンソースのCMS(content management system)ソフトウェアWordPressとSNS機能を追加するプラグインBuddyPressを利用しつつ自作したものである。また筆者は、授業SNSを含む授業サイト(<http://sitetanaka.net/>)で、教員からの授業関連情報の提供や学生からの課題の提出なども行えるようにした。この授業サイトは基本的に公開されている(ログインユーザー用のページを除く)。また、授業サイトの詳しい使い方については、同サイトのヘルプページ(<http://sitetanaka.net/help>)で知ることができる。

4. 授業SNSを利用した学習活動

教員が学生に期待する授業SNSの利用法は以下の通りである。

(1) 授業中

講義を聴きながら、講義内容に関するメモ、感想や意見、疑問や質問などを授業SNSに自由に書き込む。また、タイムライン(新しい順に並んだツイートの一覧)を眺め、あとでもう一度読みたいツイートやコメントしたいツイートをお気に入りに入れる。余裕があれば、コメントも付ける。

(2) 授業後(授業時間外)

授業中に投稿されたツイートを再度じっくり閲覧する。時間がなければ、授業中にお気に入りに入れてきたツイートのみを閲覧する。コメントを付けたいツイートがあれば、コメントを投稿する。

また、授業に関連して考えたことや他の受講者や教員から意見や情報を得たいことを投稿したり、他の受講者や教員の投稿にコメントしたりして、授業時間外でもコミュニケーションを継続する。

5. 授業SNSの効果

講義を聴きながら授業SNSで読み書きするのは、学生にとってかなり認知的負荷が大きいと思われるが、多くの受講者はそうした授業形態に慣れ、しかもそれを楽しむようになった。講義の裏チャンネルとしての授業SNSの導入は、受講者同士の協調学習を実現し、講義内容の理解を促進する上で役立ったと思われる。受講者アンケートの結果から想定される授業SNSの主な効果としては以下のようなことが挙げられる(①②③は理解促進への効果、④⑤はモチベーション向上への効果)。

- ① 他の人の考えを知ることができて参考になる。
- ② 他の人の書き込みで、聞き損なったことを補うことができる。
- ③ 後から授業ツイートを読み返すと参考になる。
- ④ 授業に集中できる。
- ⑤ 他の人からコメントが付くと嬉しい。

6. 授業SNS運用上の工夫と課題

授業SNSへの投稿を成績に反映させるため、システムへは実名で登録させたが、公表される名前は各自が定めたニックネームとした。これにより、教員に対しては匿名ではないが、受講者間では匿名性を維持することができた。これにより、書き込みへの心理的抵抗が和らぐとともに、授業にふさわしくない書き込みを防ぐことができた。

また、授業SNSというコミュニケーションの場を用意するだけでは、多くの学生が自発的に書き込むことを期待できないので、書き込みの数を成績に反映させるようにした。これは、点数稼ぎのための書き込みを招くという副作用はあるものの、活発な書き込みを実現する上で役に立ったと思われる。ただ、書き込みの質を評価せず、数が多ければよいのか、という疑問は学生からも、また筆者自身からも常に生じるため、その問題をどう解決すればよいかという課題が残されている。

参考文献

- 出口博章 (2007) 「学習管理に着目したWebベース協調学習連携型講義に関する研究」静岡大学博士論文, <http://ir.lib.shizuoka.ac.jp/handle/10297/3453>
- 村上正行 (2011) 「ソーシャルメディア導入の授業 -上- twitter活用の実践事例」『教育学術オンライン』第2463号, http://www.shidaikyo.or.jp/newspaper/online/2463/5_1.html
- Pacansky-Brock, Michelle (2013) *Best Practices for Teaching with Emerging Technologies*, New York: Routledge, Ch. 5: Backchannels and Tools for Participatory Learning